

「サイバーインシデント演習in名古屋」を開催

＜主に中小企業・団体の経営層やセキュリティ責任者等を対象に実施＞

東海総合通信局（局長 北林 大昌（きたばやし だいすけ））は、令和5年1月16日、名古屋会議室プライムセントラルタワー名古屋駅前店において「サイバーインシデント演習in名古屋」を開催しました。

近年、世界的にサイバー攻撃を起因としたセキュリティインシデントは増加しており、攻撃対象も大企業に留まらず、中小企業が攻撃の標的となる事案も目立っています。特に、東海地方にはサプライチェーンの最前線を担う中小企業が多く集まるため、セキュリティインシデントが発生した場合には多くの取引先や関連企業にも被害が及びます。

サイバー攻撃への備えとして、社内でセキュリティへの危機意識を共有し、インシデント発生時の対応手順や体制を整えることが喫緊の課題となっています。

本演習では、株式会社川口設計代表取締役の川口洋氏を講師に、前半はサイバー攻撃に備えるために持つべきセキュリティ対策への考え方や基本方針について講義を受け、後半では「ランサムウェアによるインシデントの発生」を題材に、グループワークによってインシデント発生直後の対応策の検討から終息後の自己評価までのサイクルを疑似的に体験しました。グループ内では、それぞれの所属先の取組みを提案する等、受講者間の意見交換が積極的に行われ、その内容を課題ごとに発表し、全体で共有しました。

当日は、中小企業などをはじめとして30団体から37名の参加があり、参加者からは「実際のインシデントを踏まえたシミュレーションにより、俯瞰した視点での対応を把握できた」、「組織のトップもセキュリティに意識を持って皆で取組んでいかないといけない」など、サイバーセキュリティ対策への意識に変化が生まれたとの感想が出されました。

東海総合通信局では、引き続き、このようなイベントを通じて、地域のサイバーセキュリティ対策の向上に向けて取組みを進めていくこととしています。



【講義を行う川口洋講師】



【グループワークの様子】